

1989年度★フリーハンデ決定

5歳以上はイナリワン、オグリキャップが並んで65^{キロ}。4歳、3歳部門もともにトップハンデが2頭ずつ。

●1989年のフリーハンデは、美浦、栗東、本部の9人のハンデキャッパーが討議の末、5歳以上、4歳馬、3歳馬、短距離の4部門が別表のように決定した。

5歳以上総合

実力のオグリキャップ対実績のイナリワンは、ともに史上4番目の65^{キロ}で決着。



▲ここ数十年の中で三本指に入ろうかという名勝負を毎日王冠で演じたオグリキャップ、イナリワンの両馬が5歳以上部門65^{キロ}でトップを分けあった

オグリキャップ、イナリワン、スーパークリークの上位三強がひじょうにハイレベルのレースを展開し、ことは近年まれにみる充実した年であった。トウショウボーイ、テンポイント、グリーングラスの三強が激突した昭和52年よりも、層の厚さ、レベルの高さにおいてはことしのほうが上位である、ということと出席者の意見は一致している。

春はオグリキャップ、スーパークリークが不在だったが、イナリワンが天皇賞をレコードで圧勝し、宝塚記念も連覇して主役不在の穴をりっぱに埋めてくれた。秋はスーパーストースが一堂に会し、すばらしい名勝負をくりひろげてくれた。ことしは歴史に残る好レースが目についた年はない。

秋の天皇賞、ジャパンC、マイルチャンピオンシップにおけるゴール前の死闘はいずれも、史上に残る名勝負として後世に語り継がれるはずである。

GII、GIIIレースにおいても好レースが多く、とくに毎日王冠などはここ数十年の中で三本指に入ろうかというほどの名勝負だった。オグリキャップ、イナリワン、メジロアルダン、さらにはウインドミルも加わってのゴール前の叩きあい、誰もが酔いしれたことだろう。

ことしのもう一つの特徴は、レコードが続出したことである。馬場関係者の努力による馬場改良も理由の一つにあげられようが、実力のある古馬がそ

'89年のフリーハンデ

5歳以上

65	④イナリワン
63	④オグリキャップ
60	④スーパークレーク
59	④メジロアルダン
58	④ヤエノムテキ
	ミスターシクレノン
57	④ランニングフリー
	スルーオダイナ
	フレッシュボイス
	ランドヒリュウ
56	キリパワー
	④ダイナカーベンター
	④市ハツシバエース
	ミスターブランディ
55	※④市シヨノロマン
	ニホンピロブレイブ
54	※④抽コーセイ
	ダイナレター
	④ナムラモノノフ
	※リキアイノーザン
53	④インターアニマート
	④市カトクシン
	※クリロータリー
	ダイカツケンザン
	ニシノミラー
	※ルイジアナビット
52	④市グレートモンテ
	タニノスイセイ
	※市地ダンツミラクル
	※市地トウショウアロー
	バレロッソ
	④ハーディゴッド
	ベルベットグローブ
	マルブツファースト
	メモリーバイス
	④モガミチャンピオン
	(計36頭)

この2頭の比較をどうするか——が、最大の争点だった。スーパークレークを3番手の評価とし、メジロアルダンに4番手の評価にすることにしている。全員の意見がすんなり一致している。しかしながら実力のオグリキャップ、実績のイナリワンのどちらを一番手に

「実力のオグリキャップ」

以上、2点を踏まえてトップの馬を決めることになったが、フリーハンデ会議においてもまた史上まれにみる激論が交わされた。トップの馬を決定するに延々2時間半もの激論が交わされたのは、フリーハンデ会議史上初めてのことである。

「実力のオグリキャップ」
「実績のイナリワン」
「この2頭の比較をどうするか——が、最大の争点だった。スーパークレークを3番手の評価とし、メジロアルダンに4番手の評価にすることにしている。全員の意見がすんなり一致している。しかしながら実力のオグリキャップ、実績のイナリワンのどちらを一番手に

おくかという点においては、意見が真つ二つに分かれて互いに譲らず、結論を出すのに長時間を要してしまっただけだ。これまでも、こういう実績、実力の論争は何度も起きている。しかし、最終的にはおおむね実績重視の方向で落ち着いてきた。たんに実績だけで評価するならば、これはもう間違いなくイナリワンのほうがオグリキャップよりも2、3はハンデが上である。春の天皇賞、宝塚記念、有馬記念のG1勝うちレコードが二つという実績は、歴代の中でも上位にランクされるものだ。グレード制が始まって以来この部門で、年間G1を3勝した馬はシンボリルドルフ、タマモクロスしかない。したがって実績でイナリワンはこの2頭に次ぐ評価となり、65、というハンデに決定した。

最近のハンデ上位馬は、シンボリルドルフが最高の70、で、次いでタマモクロス68、カツラギエース66、テンポイント65、といった順であり、これらの馬と比較してもかなりの評価と思われる。

さて、問題はオグリキャップである。もし秋の天皇賞を勝ち、ジャパンCを勝てれば間違いなくシンボリルドルフに肉薄する評価をされていた。ところが、悲しいかな2レースとも惜敗の涙をのみ、有馬記念が5着。この馬には総合部門で対象となるG1勝ちがない。マイルチャンピオンシップを勝つには勝っているが、これは短距離部門で対象とされるレースで、総合部門では強力な評価材料にはならない。つまり実績面ではイナリワンよりはるかに劣るのだ。

しかしオグリキャップ派は、秋の天皇賞とジャパンCの内容、そして一連のレースで見せた怪物ぶりを取り上げ、イナリワンと同等かむしろそれ以上のハンデを、次のような論拠で主張した。

「オグリキャップは確かに怪物といった印象を与える。タイトルはなくても強さという印象ではこの馬が一番だ。過去にこういう感覚の馬はいなかったろう。将来もそう簡単には出てこないだろう。したがってこの馬だけは特例にすべきだ」

「オグリキャップは確かに怪物といった印象を与える。タイトルはなくても強さという印象ではこの馬が一番だ。過去にこういう感覚の馬はいなかったろう。将来もそう簡単には出てこないだろう。したがってこの馬だけは特例にすべきだ」

「オグリキャップは、オールカマーに始まる激戦に次ぐ激戦の疲れがたまっている、有馬記念で力尽きたという感じだ。いや、ここまでよくぞ故障しなかったというべきだろうか。すくなくとも昨年4歳時に有馬記念を制した能力からいって5着に負けるような馬ではない。最大の敗因はマイルチャンピオンシップを使つて連闘でジャパンCに出走した反動だろう。」

しかしイナリワン派は「いかなる外的要因があろうとも、いかなる好レースをしようとも負けは負け。ほんとうに強い馬であるならば、外的不利を克服して勝つはずだ」と主張した。一方、オグリキャップ派としても、イナリワンの実績を打ち破るだけの論拠を持っていなかった。

お互いに一理あり、そしてお互いが論争に終止符を打つ強力な論拠を持ちあわせていなかった。が、オグリキャップの強さだけは誰もが認めた。いつも目いっぱい走って歴史に残る名勝負を演じ、きついローテーションに耐え

で世界レコードで走った。内容でこれほどの強いインパクトを与えた馬はいまだかつてない。

2時間半の激論の末、いままでの実績重視という基本原則は今後も変わらないが、オグリキャップはあくまでも特例として、イナリワンと同等の65*という結論に落ち着いた。フリーハン

4歳

ダービー馬ウイナーズサークル、菊花賞馬バンブービギンともに62キ。

ことしの4歳は上位の層がひじょうに薄く、かなりの低レベルの年であったことは否定できない。

関東ではサクラホクトオーがクラシック候補として騒がれたが、不良馬場で惨敗してからおかしくなり、まったくの期待のおれに終わってしまった。春の重賞の勝ち馬がめまぐるしく変わり、皐月賞馬ドクタースパートもダービー馬ウイナーズサークルも秋になったの成長がうかがえなかった。

関西では、スターサンシャインをはじめ春先に台頭した牡馬が、強いという印象をさほど残さないまま休養に入ってしまった。秋になってバンブービギンが急成長し、京都新聞杯、菊花賞と連覇し、有馬記念での古馬との対決が期待されたが、故障で休養に入った。

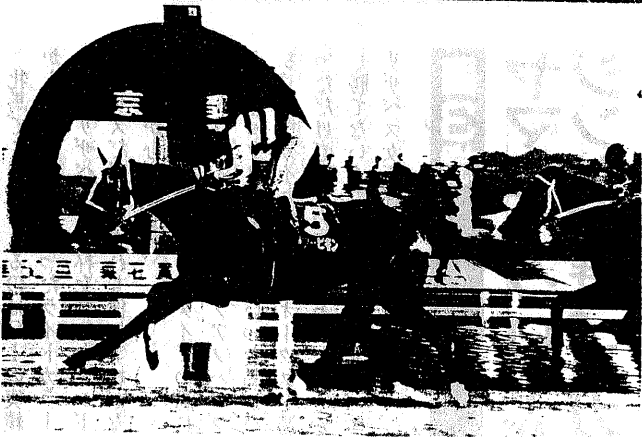
牝馬もシャダイカグラを除いては総体的にレベルが高くない。シャダイカグラは春の時点では牡馬に劣らぬ強さをみせていた。エリザベス女王杯の思わぬ故障による大敗を除いては、唯一この馬だけがクラシック戦線で安定した成績を残した。結局、上位陣のなかで年間を通して活躍した馬は1頭もい

て史上において実績重視の原則を覆した馬は、オグリキャップが初めてである。たとえタイトルを取れなくても、われわれはオグリキャップの怪物ぶりに敬意を表した。

以下の馬については、別表をあらわにいただきたい。

なかったことになる。

ただし、条件クラスでは古馬と五角に走っており、その意味でことしの4歳はピラミッド型ではなくて台形の勢力分布といえよう。当然ながらことしの4歳のトップハンデはここ数年にく



らべて低くなる。しかし考えてみれば6、7年前までは毎年だいたいこんな感じてあった。ミスターシービーの頃から傑出した馬が次々と出ていたものだから、ことしの4歳のレベルが低い印象を与える。

さて、例年のトップハンデはダービー馬ということになっている。しかし、ことしに限っては菊花賞馬のバンブービギンのほうが、ウイナーズサークルより上か同等という意見が多く出た。確かにウイナーズサークルのダービー優勝タイムはあまりにも悪すぎる。良馬場でおこなわれたにもかかわらず、やや重のオークスとはとんど変わらな

これまで並のダービー馬でも62*で、それ以下になったことはない。したがってウイナーズサークルの62*はすんなり確定し、次にバンブービギンのハンデに移った。昨年のスーパークリークが61*だが、重賞勝ち菊花賞一つだけ。これに対してバンブービギンは神戸新聞杯2着、トライアルの京都新聞杯に勝ち、一番人気で菊花賞を制した。菊のステップを踏んでなおかつ人氣で勝った点で、内容はスーパークリークより上という評価で一致した。

したがってバンブービギンは1*上の62*とし、ウイナーズサークルと同等のトップハンデということになった。菊花賞馬に62*のハンデがついたのは、プレストウコウ、インターステン以来である。

次いで菊花賞、有馬記念の実績からサクラホクトオーの評価に移った。この馬は朝日杯を勝った時点では、皐月賞の最有力候補にあげられていた。春のクラシック不振は不良馬場に泣かされたこともあるが、体調にも問題があったようだ。しかしセントライト記念で復活し、距離がやや長いのではないかとと思われる菊花賞で、大外にふれながら上位に食いこんだ。また、有馬記念はあの強力メンバーの中で3着に突っ込んでいる。したがって60*のハンデは与えるべきだという意見もあった。

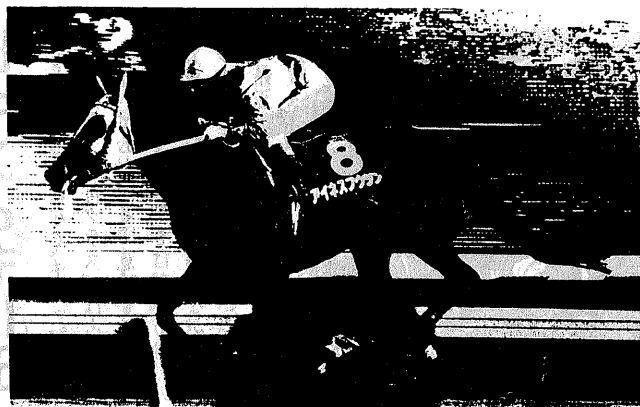
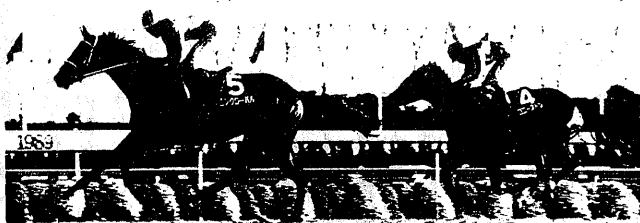
しかし、春の惨敗から60*は評価しすぎだと思われる。能力を認められても、競馬は勝たなければダメだ。それに菊花賞、有馬記念で伸びてきたといっても、勝ち負けになるまでにはいたっていない。オグリキャップのような怪物はともかく、実績重視の原則はくずせない。結局、サクラホクトオーは59*という意見でまとまった。

'89年のフリーハンデ

4 歳 馬

62	ウィナーズサークル
	④バンブービギン
59	⑤市サクラホクトオー
	※シャダイカグラ
58	④地ドクタースパート
	オサイチジョージ
57	④レインボーアンバー
56	リアルバースデー
55	※④ライトカラー
	※④サンドピアリス
	スピークリーズン
	トワトリプル
54	アクアビット
	サーペンアップ
	④スターサンシャイン
	ナイスナイスナイス
	ナルシスノワール
	※④ファンドリポポ
	※メジロモントレー
53	※カッティングエッジ
	ダイワゲーリック
	※④ホクトビーナス
	④マイネルブレイブ
	※ヤマフリアル
	④アンシストリー
52	※④市シンエイロータス
	スタビート
	マルブツスピーリア
	※ヤシゲストシチー
	※リアルサファイヤ
	※④リリースブーケ
	(計31頭)

▶3歳部門は西のヤマニングローバル(上)と東のアイネスフウジンがともに55*にランクされた



次に問題となったのはドクタースパートの評価である。皐月賞馬であり、本来ならサクラホクトオーより先に論議すべき馬なのだが、秋の成長がいま一つでマイナス材料が多い。皐月賞馬はこれまで最低でも60*には評価してきた。しかし、ことは例年にくらべてレベルが劣る点、皐月賞を勝ったあ

との成績がひどすぎる点から、59*に落とさざるを得ないという意見が多く出た。牝馬シヤダイカグラの59*は全員一致で決まった。大外でしかも出遅れを克服しての桜花賞の勝ちっぷりがすごかったし、オークスの内容を評価できている。ことしの4歳のなかで安定した成

績を残したのはこの馬だけである。

牝馬でこの次にくるのはG-Iの実績から、オークスを勝ったライトカラーと、エリザベス女王杯を勝ったサンドピアリスだが、いずれも他に実績がなく評価がむずかしい。

最近の例で同じようなタイプの馬には、トウカイローマン、ノアノハコブネ、キョウワサンダーといった馬がいる。トウカイローマンはオークスを勝っただけで57*の評価であった。しかし勝てないまでも、桜花賞で4着、エリザベス女王杯でも4着にきており、

3歳

ヤマニングローバル、アイネスフウジンが55*。コガネタイフウ54*。

ことしの3歳は東西の馬が交流する北海道シリーズで関西馬が圧倒的な強さを見せた。夏から秋にかけてローカルの中の重賞はすべて関西馬が優勝した。府中にもコガネタイフウ、ダイカツリュウセイらが遠征しており、ことしの3歳競馬は例年とちがったかたちで進んできた。

比較からいってライトカラーはトウカイローマンよりも下だという意見が多く出た。したがってライトカラーを56*とし、サンドピアリスを55*とした。あと、春の一連の成績からフアンドリポポをサンドピアリスと同じ55*に並べられないかという意見もあったが、タイトルがないだけに最終的に1*下の54*に落ち着いている。以下の馬については、別表をごらんいただきたい。

もう一つの特徴はレコードが続出したことである。レコード更新が11、タイレコードが3というのは特筆ものだ。天候に恵まれ馬場の悪化が少なかったこともあるが、3歳競馬でこれほどレコードが続出した年はない。夏から秋にかけて劣勢だった関東馬も、暮れが近づくとつれて素質の高い馬が次々と台頭してきた。3歳競馬が終わった時点で関東馬もひじょうに中身の濃いものになっている。ことしの3歳は全体的に層の厚さは保っているものの傑出した馬はおらず、現在のところ来年度のクラシックに向けて混沌とした状態である。

三つめの特徴は新種牡馬の活躍が目立つことだ。内国産ではミスターシービー、外国産ではミルリーフ産駒の種牡馬サウスアトランティックやリーフグレイドの活躍がなかでも目につく。さて、例年ならトップハンデはG-I

'89 年のフリーハンデ

3歳(東)

3歳(西)

55	アイネスフウジン	55	⑤ヤマニングローバル
54	⑤市プリミエール	54	市コガネタイフウ
53	⑤カムイフジ	53	※ユニーストン
	クロスキャスト		ダイカツリュウセイ
	※サクラサエズリ		⑤ダイタクヘリオス
52	⑤ドライビングモール	※⑤市ツルマルミマタオー	
	※⑤アサヒバシオン	※レガシーウィス	
	チョウカイエース	※⑤イチヨシロマン	
	⑤ハシノケンシロウ	⑤インターボイジャー	
	市マイネルグランツ	エスアルビヒーロー	
	市マイネルハイル	オースミロッチ	
	⑤メジロライアン	グランドゴールド	
51	※⑤ヤマタケサリ	⑤ダイイチオイシ	
	※アサカプリンセス	⑤ニチドウサンダー	
	⑤グランバトル	ハギノハイタッチ	
	サクラアサヒオー	⑤市ハクタイセイ	
	シュバリエ	※⑤ムーンセレナード	
	シンボリガルダ	※アグネスフローラ	
	※スイートアブサラス	※市イクノディクタス	
	※⑤スイートミトゥーナ	※エイシンサニー	
	※スターローマン	⑤ゴールデンアワー	
	※⑤タカラスマイル	タートルプリンス	
	トウショウバレット	市ダンディスピリット	
	ノーモアスピーディ	※⑤市ツルマルベッピン	
	※フェザーマイハット	⑤プリンスシン	
	⑤フジミワイメア	ロングアーチ	
	⑤市ホワイトストーン	ワンダーレSSL	
	ルクソールシンボリ	※市アオイチヨギク	
	ワイルドファイアー	※市カシワズパール	
	アズマイースト	カツノマシン	
50	⑤ウイナースバレス	※⑤キクカローバート	
	⑤ゲストハウス	グレートベエスト	
	サクラスズカオー	ケイヘキスト	
	※サクラヒラメキ	⑤ゴッドインスター	
	サクラロングオー	※シンシノブ	
	※⑤市サニーシラユリ	※ソウゲブネメガミ	
	⑤ジャカード	ダイカツブランド	
	⑤セイカンオー	⑤トシグリーン	
	※ソプリンドリーム	トヨカステイオー	
	市タイフウオーザ	ナリタハヤブサ	
	⑤ダイワシーゲル	⑤ニホンピロボーイ	
	※ターキーレッド	※ネムリヒメ	
	※⑤ドウカンギャル	⑤フミノゼウス	
	トネヒーロー	市ヘイセイトミオー	
	⑤ドラゴンラリー	⑤ヘイセーテリオス	
	※⑤ナイキルージュ	ホクザンエンペラー	
	※市ハイエストビッド	※⑤ホシビーブ	
	※⑤ハントウイッシュ	⑤メジロバーマ	
	※ピクトリーダンス	モガミレゾ	
	⑤ホッカイジェット	※ヤマニンメモリー	
	※市マツファニー	※ヤマノカグヤヒメ	
	メイボーイ	※ロングバージン	
	※⑤ユーワエトランジェ	市ワイドバトル	
	(計53頭)	(計53頭)	

の朝日杯3歳S、阪神3歳Sの両優勝馬から話を進めるところだが、こゝしはまずGIIのデイリー杯3歳Sを勝った直後に骨折して休養に入ったヤマニングローバルの評価から入ってみたい。この馬の能力の高さは出席者の誰もが認めている。無事に阪神3歳Sに出走していたならば好勝負になったはずだ。とにかくデビューして3戦のレース内容がいい。デイリー杯3歳Sでは後続を引き離したため、ゴール前では余裕もあったが、それでいてレコードとはコンマ2秒差。まともに追ってればレコードは軽く更新したはずである。しかも他が勝ったり負けたりして安定

感のないレースを繰り返すなかで、この馬だけが安定した走りを見せていた。トウショウボーイの再来ではないかと思われるほど祖父そっくりの体つきをしており、無事ならばクラシック候補のナンバー1だった。過去、こうした高い素質を見せてリタイヤした例でサクラロータリーがいる。昭和61年はこの馬がトップハンデで54だった。内容的にはサクラロータリーよりもヤマニングローバルのほうが評価が上で、トップハンデの55、というところで意見がまとまった。朝日杯3歳Sの優勝馬アイネスフウ

ジンもこれと同等の55で意見は一致している。マルゼンスキーのタイレコードというのは、とにかくりっぱだ。シーホークの産駒だから距離がのびても楽しめる。デビューして千六百メートルを集中的に使われてきたあたり、既合の方針も好感が持てる。阪神3歳Sのユガネタイフウは人気がなかったが、ダイタクヘリオスをゴール前きっちり差した。距離がのびても注目できるだろう。ただ、内容的に上位2頭にはちよつと見劣る。阪神3歳Sまでは成績にムラがあり、このレースを勝ったからといってトップハンデはつけない。したがって1、下の54、ということに落ち着いてい

これと同等のハンデがついたのがアリミエールである。重賞レースでの実績はないが、2戦目以降の勝ちっぷりがとにかく強い。大物感あふれるレースで、ヤマニンスキー産駒だから距離のびても問題ない。クラシック戦線で上位を狙える器である。牝馬では関東のサクラサエズリの活躍が目立った。父がミルリーフ産駒の新種牡馬ということでも注目しているが、この馬のスピードは桜花賞でも十分通用する。朝日杯3歳Sをあれだけのハイペースで逃げて2着に粘るあたりだものではない。一方、関西の牝馬ではユニーストン

とレガシーウィスにもサクラサエズリと同等の53*がついた。
以下の馬については別表をごらんい

ただきたいが、牡馬では関東が3頭、関西が3頭、それぞれ53*のハンデがついた。

短距離

オグリキャップが総合と同じ65*。 バンブーメモリーは64*。

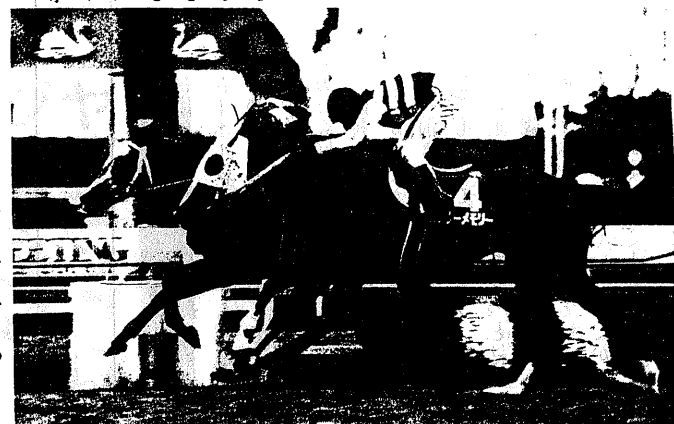
ことし、この部門で実績を残した代表的な馬はバンブーメモリーである。ダートから芝路線に切り替えてからの成長ぶりにはめざましいものがあつた。オーブンを使って連闘で安田記念を勝ったわけだが、タイムはレコードにコンマ1秒。しかも、やや重でのタイムだからひじょうに優れたものだ。

過去、この部門での上位は、ニホンピロウイナーが最高の66*で、次いでニッポータイオーが64*である。このときのニッポータイオーは安田記念を2着で、マイルチャンピオンシップを勝つて64*という評価だった。バンブーメモリーはちょうどニッポータイオーの逆であり、一連の内容からも同等の評価が妥当であると思われる。

秋も順調にステップを踏み、スワンSを楽勝してマイルチャンピオンシップにのぞんだ。もし、このレースにオグリキャップが出走してこなければ、バンブーメモリーはマイル二冠をあっさり達成していた。負けはしたもののゴールまで接戦で、最後までオグリキャップを苦しめた内容は高く評価できる。一連のレースで安定した走りを見せているのも好感材料だ。

なかにはニッポータイオーよりも1*上の評価をすべきだという意見も出たが、春の時点では条件戦を走っていた馬であり、しかもオーブンでシヨノロマンに負けたり、いくつか取りこぼしが見られる。

もしバンブーメモリーを65*とするならば、ニホンピロウイナーとの差は1*となる。ニホンピロウイナーはこ



▲マイルチャンピオンシップで大接戦をみせたオグリキャップが65*、バンブーメモリーが64*で短距離部門の1、2位となった

の部門では取りこぼしがまったくなく、完璧なまでのレースをした。その内容とは差がありすぎる。バンブーメモリーはやはり2*下におかねばならない。したがって最終的に64*ということに落ち着いた。

さて問題はオグリキャップである。この馬は中・長距離路線をずっと走りながら急にマイルチャンピオンシップに

出走してきたわけだが、このレースを勝つた以上は評価しないわけにはいかない。しかも実績がこの一つだけしかないといっても、バンブーメモリーよりも当然上の評価をしなければならぬ。したがって総合部門と同等でバンブーメモリーより一つ上の65*ということで見解がまとまった。

3番手にくるのはミスティックスターだが、オグリキャップ、バンブーメモリーの2頭からはかなり差がある。ミスティックスターの実績は昭和61年のロングハヤブサ(59*)によく似ている。ロングハヤブサは阪急杯、マイルCに勝つて安田記念、マイルチャンピオンシップが各3着。これに対してミスティックスターはマイルC、BC賞に勝つて安田記念3着だから、同じ59*で問題あるまい。

4番手はダイゴウシュールだが、この馬は本来この部門で扱うような馬ではない。ほんとうはもっと長い距離のほうが合っている。しかし唯一の実績が安田記念の2着なのだからここで評価せざるを得ない。2着といっても後続は引き離しており、それなりの評価をすべきだという意見でまとも、ダイゴウシュールには58*がついた。

5番手はホクトヘリオスとリンドホシ。ホクトヘリオスは昨年は勝ち星があつたが、ことしは一つも勝ってない。しかしG1レースで確実に伸びて3着に突っ込んでくる脚を評価して57*がつけられた。リンドホシはGIIの京王杯スプリングCを勝つただけだが、この路線を堅実に走った内容が評価されて同じく57*がついた。

ことしの実績が短距離レースのみのマテリアル以下のハンデについては別表をごらんいただきたい。

'89年のフリーハンデ 短距離(1600以下)4歳以上

65	⑥オグリキャップ
64	バンブーメモリー
59	ミスティックスター
58	ダイゴウシュール
57	ホクトヘリオス
	リンドホシ
56	マテリアル
55	ウィニングスマイル
	④グリーンモリー
	トウショウマリオ
	*ルイジアナビット
54	ケーブポイント
	⑤市サンキンハヤテ
	ハウエイソブリン
	ホリノライデン
53	③アイビートウコウ
	*⑧イーグルシャター
	*コクサイリーベ
	*⑩パッシングショット
	*⑩リリースブーケ
	リンカーンシチー
52	*⑩アイドルマリー
	*⑩タニノターゲット
	プリンシプル
	メイショウコブラ
	(計25頭)

